

第3回 図書館建設検討委員会 議事概要

1. 開催日時

令和2年11月22日（日） 午後1時55分から午後3時23分まで

2. 場所

大和ふれあいセンター シトラス

3. 出席者

【委員】

塚原 正彦，萩原 剛志，田嶋 貴子，濱野和 博，友常 梢，田口 瑞男，仁平 昌則，栗林 浩

【桜川市教育委員会】

教育長：稲川 善成

事務局：久見木 憲一，萩原 由紀恵，中島 崇教，海老沢 なるみ，矢島 賢人（生涯学習課）

4. 会議の内容

- (1) 基本構想 「現状と課題」「コンセプト」について
- (2) 基本構想 「立地」「運営形態」について
- (3) 欠席委員意見
- (4) 今後について
- (5) 教育長あいさつ

5. 協議事項

- (1) 基本構想 「現状と課題」「コンセプト」について

○事務局より説明

【意見】

- ・基本構想（案）について，10 ページ「6.桜川市の図書施設の中央館としての機能」の項目の中に文化財に関する資料を収集・保管します，との記述があるが，文化財資料の保管・収集については真壁伝承館2階に保管機能の整ったスペースが整備されている。新しい図書館の中にも同様の設備を入れる必要性はあるのか。
- ⇒（事務局）出土品や文化財そのもの，それに関する紙の資料などについては，真壁伝承館のスペースに収納し，新図書館では，それらをデジタル化して収集する考えである。基本構想（案）の記載の方法を再度検討し，誤解を生じない記載方法で修正する。
- ・基本構想（案）について，13 ページ「VII.その他」にて周辺地域の景観に配慮したデザインとするとのことだが，現在都市整備課で景観計画を策定しているため，都市整備課と協議し建物の外観を決めていただきたい。

⇒（事務局）桜川市の景観計画との整合性を図り計画する。

- ・コンセプトを見て、これからの新しい図書館として非常に期待が持てる。
- ・電子図書館にはメリットが大きいと思われるが継続的な経費などデメリットもあり、潮来市などでは電子図書館を運営するうえで課題があるようなので、桜川市でも運営をはじめてから様々な課題が生じると思われるが対応をお願いしたい。
- ・基本構想（案）の10ページの「5.飲食可能なスペース設置の検討」について、民間の方に運営を委託するとか、貸し出しの自動化など活用できるものがあると思う。
- ・桜川市には数多くの文化財があるため、様々な資料がすぐに検索できるよう、デジタルアーカイブ化してデジタルミュージアムとして皆様に見ていただけるとよいと思われる。
- ・蔵書10万冊は、桜川市の規模から考えて妥当だろう。
- ・子連れで来館する親からすると、子どもが大声を出してしまったり、色々と気を遣う場面がある。そのため、児童書コーナーは、他の本とは別にコーナーを作ったほうがよい。

⇒（事務局）子どものコーナーとして別の場所に作ると、子育て支援施設のような別空間となってしまう、図書館としての一体感が薄れる。基本計画策定の段階で、さらに詳しく調査し、できるだけ気を使わず来館できるような工夫を検討する。

⇒（委員長）山形県に2、3年前にオープンした図書館では本、遊具、工作、実験を全部できる施設になっており、桜川市でも基本コンセプトとして3番に子どもを中心にと設けているため、これを受けて基本設計時に考慮していく形になる。また、読み聞かせについても、デジタル化した新しい読み聞かせなども検討していくとよいのではないか。

- ・文言の整合、脱字等見直す必要がある。収集、記録、保存の書き方も順番がバラバラになっていたり、小・中学校の記述では義務教育学校の文言が抜けている。
- ・コンセプトの2行目にあります「柔軟で多様な学びの場を提供する」がコンセプトのどれに該当するのかわからない。3番の学びの部分に含めたほうがよいのでは。
- ・コンセプト3番で「子ども中心」とうたっているが、3番内に「あらゆる市民が」との記述も見られ、疑問に思った。

⇒（委員長）「あらゆる市民に」と「子どもに」ではコンセプトが違ってくるので、子ども中心とするコンセプトを独立させ1項目追加する。

- ・平日だと、高齢者の利用が多く、週刊誌など旬の図書を好んで読んでいる傾向にある。毎週発刊の書物を買いつけるのは予算的に厳しいと思うが雑誌目当てに1度だけでなく2度3度と足を運んでもらえるきっかけになるのではないか。
- ・「柔軟な」とはユニバーサル、全市民向けといったことではないかと思う。また、コンセプトそれぞれを押さえしっかりまとまった構想になっているため、コスト面についてもしっかりと検討して計画してほしい。

⇒（事務局）コンセプトの3番については、柔軟で多様な学びの場ということになれば、子どもから高齢者まで、あらゆる学びに対して対応できるといった点で、あえて1つにまとめた。

- ・学校図書室との連携については、計画策定の際に他の事例を確認し計画に記載していく。
- ・電子図書館については、学校の副読本などを PDF から電子書籍化することが可能。また、ID・パスワードなしで、皆で閲覧することができる。
- ・旬の図書については、高齢者には新聞、雑誌が人気。雑誌はある程度幅をもって集めていくが、図書については専門性の高い図書、高額な図書、難解な図書等は相互貸借等により図書館間で取り寄せたりできるため、それらの本は制度に任せ新図書館では身近で旬な本を中心に揃えていくことを検討。

(2) 基本構想 「立地」「運営形態」について

○事務局より説明

○事務局提案

立地検討の条件として「岩瀬地区を中心とすること」と記載しているが、現在の候補地が全て岩瀬地区であることから「岩瀬地区とする」の形の方が自然かと思われるため修正したほうがよろしいか。

【意見】

- ・図書館の立地は岩瀬庁舎敷地内を希望。公民館との複合施設となると設備などが中途半端になる恐れがあるため、図書館は図書館としての建設を希望したい。また、図書館内に市役所窓口が設置されるのが理想。
- ・運営形態について、指定管理のデメリットとして競争性の低下等が挙げられているが、市でモニタリング等行い管理すれば克服できる問題点ではないか。今後さらにデジタル化を進めていくとなると民間事業者の力が必要となるのではないか。
- ・他の図書館では最低どのくらいの規模で指定管理を行っているのか、指定管理料がいくらなのかよく調査するべき。また、桜川市の規模の図書館で指定管理を受けてくれる業者がいるのか問題がある。
- ・人件費等削減のため市役所内で司書の資格を持っている職員を活用できないか。
- ・合併から15年経過するが、岩瀬地区では合併特例債を使った事業を行っていないといった経緯から、市民からも岩瀬に作ってほしいという声が上がっている。「中心とする」の文言は外していただき、岩瀬地区に建設していただきたい。
- ・現在図書館を利用される方の大多数は自家用車等を利用している。駐車場の確保のため岩瀬公民館敷地内か岩瀬庁舎敷地内がよいのではないか。

⇒（委員長）

- ・歴史的経緯を踏まえ新図書館は岩瀬地区に建設することとする。
- ・図書館の規模を考えると、講座など生涯学習全般のデジタル化を含めての指定管理という形であれば受けてもらえるのではないか。基本計画の際に検討していくこととする。
- ・デジタル化元年のプロジェクトとして令和5年の開館を目指しできるだけ早急に進めていく。

(3) 欠席委員意見

- ・蔵書について、市固有の歴史を継承する資料や市の文書、記録等をアーカイブとして可能な限り網羅的にカバーしていただくことが望ましい。
- ・図書館に期待する集客機能について、近年の図書館整備の成功例では、様々な世代の交流拠点、居場所として機能していることが見られる傾向にある。
- ・高校生くらいまでの若年層や高齢者にとっては立地面でのアクセス性が重要。
- ・集客のため定期的に運営面での工夫、イベント等企画の充実化が望まれる。
- ・小、中、高との教育連携プログラムとして、地域の歴史等調査の学習や自由研究等と連携してサポートするコンテンツが望まれる。
- ・まちづくりとの連携の視点では、岩手県紫波町^{しわちよう}の事例では図書館の集客力を生かした周辺のまちづくりを一体的に行ったことで、相乗効果を創出し成功している。
- ・指定管理の成功例では、自治体内部からの利用人口のだけを想定していた発想から脱却し、より広域圏を見据えた大きな市場、需要の創出を見据えている点がある。
- ・人口減少社会を迎え、公共施設の統廃合が進み、跡地利用の問題が浮上してくるため、現有地に建設し、また複合施設の中にあることにより多様な利用形態が考えられる。
- ・市の規模から考えて、大規模事業をいくつも並行することは厳しいため、他の事業の状況を注視しながら工程を考えていくべき。

(4) 今後について

本日の意見を踏まえ、最終案を示し書面決議により承認いただく。

今後、図書館建設に際し、意見を求める際には順次検討委員会を開催する。

(5) 教育長あいさつ

○稲川教育長よりあいさつ